

# 猫伝染性腹膜炎 (FIP) とは

コロナウイルスの一種である猫伝染性腹膜炎ウイルス(FIPウイルス)によって引き起こされる感染症です。猫の多くが持っている猫腸コロナウイルスが突然変異によって病原性を持つFIPウイルスになると言われています。腸コロナウイルスを持つ子猫が発症するわけではなく、明確なきっかけは分かっていません。非滲出型(ドライタイプ)と滲出型(ウェットタイプ)に分類されます。

残念ながら予後が悪く、発症したほとんどの子が亡くなってしまいう疾患です。

## 《共通の症状》

- 元気が無い
- 食欲低下
- 嘔吐、下痢
- 黄疸

## 《ドライタイプの症状》

体のあちこちに肉芽腫(組織の塊)が出来ます。脳にできてしまうと、けいれん発作が見られます。目に出来るとブドウ膜炎などが見られます。

## 《ウェットタイプの症状》

腹膜炎による腹水貯留や、胸膜炎による胸水貯留が見られます。黄色っぽく、粘稠性のある液体が貯留します。

## 《診断》

血液検査で貧血の有無や肝酵素値、尿毒素、アルブミン・グロブリンなどを調べます。(FIPの場合、軽度の貧血、肝酵素値上昇、高窒素血症、グロブリン高値などを示します。) また猫エイズや猫白血病ウイルス感染症が無いか確認します。

その他エコー検査や眼科検査、尿検査等も併せて行います。

症状と併せてFIPが疑わしい場合、PCR検査を行います。肉芽腫の組織や針吸引したもの、または胸水・腹水を外部検査センターに送ります。

## 《治療》

### ◆ 内科治療

免疫抑制剤(主にステロイド)、抗菌剤などを使用します。その他症状に合わせて制吐剤や利尿剤(胸水や腹水に対して)を使用します。自分でごはんが食べられず、脱水してしまいやすいので点滴を行います。しかしながら治癒は見込めず、ちょっとでも体を楽にしてあげる治療となります。

### ◆ 国内未承認薬

MUTIAN社(中国)で注射剤やカプセル剤が販売されています。カリフォルニア大学で開発されたGS-441524という新薬を中国が特許を無視して模倣したものがMUTIANだといわれています。(※しかしMUTIAN社がこれを認めていないため成分は知られておらず、日本国内では承認されていない薬です)

個人輸入か、取り扱いのあるMUTIAN協力病院で処方してもらうことで入手できます。しかし、飲ませる量が多い、治療期間が長い、決まった時間に服用しなければならないなどの条件が多く、また大変高価であることが知られています。(治療期間の合計が60~120万円程度)

以上の事から堂々とおすすしにくいお薬ではありますが、FIPを治療できる唯一の薬でもある事から藁にも縋る想いで購入される方が多いようです。

《MUTIAN II (注射)》…かなり痛いことと、打った場所に脱毛や潰瘍ができると言われていました。

ウェットタイプの場合:0.3ml/kgを注射

ドライタイプの場合:0.5ml/kgを注射

《MUTIAN X(カプセル)》

ウェットタイプの場合:100mg/kgを服用

ドライタイプの場合:130~150mg/kgを服用

※重症度によって投与量は変わります。

※いずれも84日間毎日連続投与、その後84日間再発しないか観察期間を設けるようです。